

# 伊達市 おかいこ 用具 コレクションカード Vol.5

伊達市保原歴史文化資料館では、10月より伊達の蚕糸業を主とした展示に変わります。このコーナーでは、リニューアルに向けて国重要有形民俗文化財指定を受けた伊達市所蔵のおかいこ用具をカード形式でご紹介します。

- 【あそび方】①切り取って集めよう（眺めるだけで楽しい！）  
②説明を読んで学ぼう（展示の予習になる！）  
③じゃんけん(左上)や、おかいこ度(右下)で競おう！



**機織り機**  
クレー



糸を織って織物にする機械。農閑期に衣類を織るため、自宅に機織り機を持つ農家が多かった。伊達市には江戸時代から使われる「弓棚式」という古い構造を持った機織り機が残されている。

No. 013 おかいこ度

**織物帳**  
チヨキ



各家庭に伝わるさまざまな種類の織り方が記された織物の手引き帳。織った布切れを、見本として貼り付けている。縞帳とも呼ばれる。

No. 014 おかいこ度

**葛籠**  
ハー



衣類・生糸・絹布等を入れておく衣装箱。竹で編んだカゴの上に、和紙をワラビ糊で貼り付け、表面に柿渋が塗られている。柿渋は虫やネズミを寄せ付けず、さらには湿気を防ぐ効果があるとされる。

No. 015 おかいこ度

## 「反差別の味方ですか？」 Are You an Anti-Racist Ally?

英訳版を見る▶ 

伊達な国際交流員のつれづれコラム vol.101



まず、残念ながら、差別は世界中どこにでも存在します。現在、アメリカを含む多くの国々では、「反差別（アンチレイシズム）」という、差別を積極的に認識し、声を上げていく取り組みがされています。

多くの人が「自分には関係ない」と思うかもしれませんが、しかし、ここで大切なのは、身近なマイノリティ（外国人、ハーフ、LGBTQ+など）の人々が差別に直面しているかもしれないことを理解し、彼らの「味方（アライ）」になることです。

では、どうすればよいのでしょうか？まず、差別が存在する事実を認め、日本で差別を経験した人々の話を積極的に聞きます。話を聞いたなら、「もし自分がその瞬間にいたらどうしただろうか？」と考えてみてください。話を軽視したり、比較したりするのはなく、その人の経験をしっかり受け止め、支えることが大切です。差別や自分自身の無意識の偏見について知り、逆に学び直していく過程は、決して楽ではありませんが、失敗しても、学び続けることが大切です。

皆さんがこのテーマに向き合う際の出発点になれば嬉しいですが、重い話題ですが、差別を一緒に頑張りましょう。

(イボンヌ)

にじいろのだて (男女共同参画に関するさまざまな用語を紹介)

『ポジティブ・アクション』… 男女労働者の間に生じている差を解消しようと、個々の企業が行う自主的かつ積極的な取組をいいます。

